

課題解決に向け、他者と協働して追究する授業づくり

授業づくりのポイント

※数字は学習の例と対応

- ① 児童生徒の問いや気付きを引き出し、一人一人の課題意識を結び付け、共通して追究する学習問題を設定することができるように工夫する。
- ② 社会的な見方・考え方を働かせて課題を追究できるよう、資料提示の方法と発問を工夫する。
- ③ ICTを効果的に活用し、必要な情報を収集して読み取ったり、読み取った情報を分類・整理して話し合ったりする活動の充実を図る。
- ④ 自分で調べた知識を基に、互いの意見を比べたりつなげたりしながら、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を、自分の言葉でまとめたり、表現したりする活動の充実を図る。
- ⑤ 単元の中で適切に振り返りの時間を設け、児童生徒が自らの学習状況の確認をしたり、学習したことを生かして、社会への関わり方について考えを深めたりすることができるようにする。

課題解決に向け、他者と協働して追究する学習の例

小学校第4学年 単元名「自然災害からくらしを守る」

<単元のねらい> 災害から人々を守る活動について、自分たちの生活と関連付けて協働的に追究することを通して、その働きや意義について考え、表現することができる。

単元構成の例

1 つかむ

○社会的な事象と出会い、単元の学習問題を設定する。

【単元の学習問題】
地震からくらしを守るため、どんな人がどのような工夫や努力をしているのでしょうか。

○予想を立て、学習計画を考える。

2 調べる

○予想や学習計画に基づいて調べる。

- [自助の視点から]
・家庭でどのような備えをしているか
- [共助の視点から]
・住民同士の取組には、どのようなものがあるか
- [公助の視点から]
・市や県は地震に備えて、どのような取組をしているか

3 まとめる

○地震からくらしを守る活動について調べたことを基に話し合い、まとめる。

4 いかす

○地震からくらしを守るために、自分たちの立場からできることはないか考える。

社会的な事象の仕組みや働きを学んだ上で、学びを自分の行動に生かす、という視点で考えたり振り返ったりする場を、単元の終末に設定します。⑤

資料を基に、学習問題を設定する話し合い活動

資料 秋田県で起きた主な地震 (秋田県地域防災計画などから作成)

| 年代 | 地震名 | 規模や被害の内容 |
|-----------|------------|-----------------|
| 約130年前 明治 | 陸羽(六郷)地震 | 家屋全壊4,738棟 |
| 〃110年前 大正 | 秋田仙北(強首)地震 | 最大震度5 橋が落下 |
| 〃80年前 昭和 | 男鹿地震 | 最大震度5 住家全壊565棟 |
| 〃40年前 | 日本海中部地震 | 家屋全壊1,132棟 津波発生 |
| 〃10年前 平成 | 東北地方太平洋沖地震 | 県内最大震度5強 停電発生 |

日本海中部地震で傾いた家



- T:年代と規模に着目すると、どのような地震が起きていますか。また、どこで地震が起きていますか。
S1:震度5以上の大きな地震が繰り返して起きています。
S2:県内の様々な場所で地震が起きています。
T:大きな地震が起きると、私たちや家族、地域の人々のくらしはどうなるのかを話し合ってみましょう。
S3:道路や橋が壊れたら、その後の生活が大変です。
S4:家が壊れてしまったら、私や家族は地域の人と避難所で過ごすことになるのでしょうか。

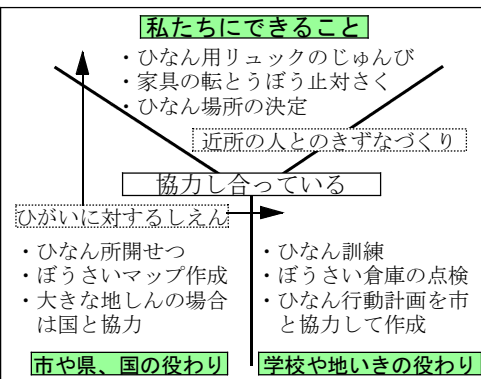
【話し合いを基にした共通の課題意識】

- ・地震が発生したとき、人々の安全を守るために、どんな活動があるのだろうか。
- ・地震からくらしを守るために、だれがどんなことをしているのだろうか。

児童が社会的な見方・考え方を働かせることができるように、着目する視点を明確にして発問を構成します。②

児童が資料から読み取った事実を基に問いや気付きを引き出し、個々の課題意識を結び付け、協働して追究する学習問題を設定します。①

グループで作成したYチャート(一部)を用いた話し合い活動



- T:地震からくらしを守るために、人々はどのように活動しているか班ごとに説明し合いました。
- S1:地震に対して、市や県、国、学校、地域が互いに協力し合って備え、行動していました。
- S2:地震が起きたときは、市や県は避難所を作ったり、国に協力を求めたりして、被害にあった人に対する支援をします。
- S3:なるほど。大きな地震が起きたときは市や県、国の役割がとても大切になりますね。
- T:地震からくらしを守る活動について、人々の役割と互いの関係が分かるようにまとめましょう。
- <まとめの例>

地震が起きたときは市や県、地域が協力し合って、私たちのくらしを守ります。家庭では日頃から地震への備えをすることが大切です。市は防災計画や避難計画を整え、地域や学校では避難訓練を行い、地震に備えています。

他の児童の多様な考えに触れて思考を深めるために、学習問題に応じてICT端末を活用して、情報を整理したり分類したりする場面を設定します。③

追究したことを基に、説明したり話し合ったりする場を設定することで、考えを深め社会的な事象の意味や特色を多角的に考えることができます。④